

平成 24 年 2 月 9 日初山別村自然交流センターにおいてリーンテクノバンク・シンポジウム「中留萌地域の農業・農村の展望と地域の担い手」が開催された。

初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会会長の北海道大学長南史男氏と初山別村長宮本憲幸氏の挨拶のあと、地域の農業振興に関して JA オロロン菅田亨弘部長から初山別村では他の地区より後継者問題が深刻であること、地域の特産品であるもち米に関連して、もち米の里ふうれん特産館堀江英一氏からもち米の販売で地元雇用も創出できた事、また地元から要望のある超強力小麦に関して北海道農業研究センター田引正氏から超強力小麦「ゆめちから」では用途開発研究がすすみ需要の拡大が期待される事が報告された。また、産業振興とともに重要な問題である農業・農村の担い手に関して、

(財)北海道農業開発公社青山俊夫氏から道内で 6・700 人の新規就農があるものの地域的に偏りがあること、北海道地域農業研究所黒澤不二男氏から府県の先進事例を挙げて担い手確保のポイントが紹介され、初山別村経済課寺崎廣輝氏の報告では自己資金、農地確保のタイミング新規就農の問題点が指摘された。

農家 36 名を含めて 72 名が参加し、今後の中留萌地域の農業・農村の展望について考える契機となった。

